

TAC 無料公開セミナー
《行政書士講座》

**正しい学習法と
計画的タイムスケジュール**

《セミナーの内容》

1. 行政書士になるには（試験概要）
2. 得点戦略とタイムマネジメント
3. 正しい学習法（効率的な学習法）

1. 行政書士になるには？（試験概要）

（1）試験要項

（2）試験科目・出題数

① 行政書士に必要な法令等（法令科目）

60 問中 46 問 — 5 肢択一式（40 問）、多肢選択式（3 問）及び記述式（3 問）

② 行政書士の業務に関連する一般知識等

60 問中 14 問 — 5 肢択一式（14 問）

（3）出題形式

① 5 肢択一式（60 問中 54 問 — 1 問 4 点）

ex. 次のうち正しいものはどれか。

- 1 ～
- 2 ～
- 3 ～
- 4 ～
- 5 ～

② 多肢選択式（60 問中 3 問 — 1 問 8 点・部分点あり）

ex. ア～エに当てはまる語句を、枠内の選択肢（1～20）から選びなさい。

～～ ア ～～～～ イ ～～～ ウ ～～ エ ～～～～～。

1	2	～	20
---	---	---	----

③ 記述式（60 問中 3 問 — 1 問 20 点・部分点あり）

ex. ～について、40 字程度で記述しなさい。

（4）合格基準 ⇒ 300 満点中 180 点（6 割）で合格！！

2. 得点戦略とタイムマネジメント

(1) 得点戦略

① 行政書士に必要な法令等（出題数 46 題－244 点/300 点）

{	基礎法学－	(2 問	8 点)	配点小・分量多・難易度易
	憲法	－ (6 問	2 8 点)	配点中・分量少・難易度易
	行政法	－ (2 2 問	1 1 2 点)	配点大・分量多・難易度中
	民法	－ (1 1 問	7 6 点)	配点大・分量多・難易度高
	商法	－ (5 問	2 0 点)	配点小・分量多・難易度高

② 一般知識等（出題数 14 題－56 点/300 点）

⇒ 40%（24 点）以上の得点必要。

{	政経・社会－	(7 問	2 8 点)	配点小・分量多・難易度高
	情報通信・個人情報保護			
	－	(4 問	1 6 点)	配点小・分量少・難易度中
	文章理解	－ (3 問	1 2 点)	配点小・分量多・難易度低



学習の中心に据えるべき科目の選択

- ① 配点が高い科目を得点源にする必要があります。
→ 行政法、民法
- ② 学習分量が少なければ、短時間の学習で得点に直結します。
→ 憲法、情報通信・個人情報保護
- ③ 難易度が易しければ、短時間の学習で得点に直結します。
→ 憲法、文章理解

これらの科目を、学習の中心に据えることが短期合格の秘訣です。

(2) 戦略的タイムマネジメント

① まずは残り時間を算出してください。

- ・ 1 週間で勉強に割くことができる時間は、週_____時間。
- ・ 残り_____週 × 週_____時間 = 本試験までに残された時間

1月4日（日）～	残り44週
2月1日（日）～	残り40週
3月1日（日）～	残り36週
4月5日（日）～	残り31週
5月3日（日）～	残り27週
6月7日（日）～	残り22週
7月5日（日）～	残り18週
8月2日（日）～	残り14週
9月6日（日）～	残り 9週
10月4日（日）～	残り 5週
11月8日（日）	行政書士本試験

② 多く出題される部分に多くの時間を割くのが効率的です。

【法令科目】（81.3% 244／300） 残り時間×約 0.82＝法令の残り時間
（_____時間）× 約 0.82 ＝ 法令の残り時間（_____時間）

- ① 基礎法（ 2. 6 % 8点）残り時間× 2.6%＝基礎法学の残り時間
- ② 憲 法（ 9. 3 % 28点）残り時間× 9.3%＝ 憲 法の残り時間
- ③ 行政法（37. 3 % 112点）残り時間×37.3%＝ 行政法の残り時間
- ④ 民 法（23. 3 % 76点）残り時間×25.3%＝ 民 法の残り時間
- ⑤ 商 法（ 6. 6 % 20点）残り時間× 6.6%＝ 商 法の残り時間

【一般知識等】（18.6% 56点） 残り時間×約 0.18＝一般知識の残り時間
（_____時間）× 約 0.18 ＝ 一般知識の残り時間（_____時間）

- ① 政経社（ 9. 3 % 28点）残り時間× 9.3%＝ 政経社の残り時間
- ② 情報等（ 5. 3 % 16点）残り時間× 5.3%＝ 情報等の残り時間
- ③ 文 章（ 4. 0 % 12点）残り時間× 4.0%＝文章理解の残り時間

※ここで算出した時間を、巻末 400 時間表に割り振ります。勉強しなくても、一日の勉強予定時間分をマーカーしていきます。

3. 正しい学習法(効率的な学習とは)

(1) 合格に必要なかつ最小限の知識とは？

- ① **過去問** 土台をつくる。
- +
- ② **α (アルファ)** 過去問で出題された問題の周辺知識を理解する。

(2) 行書試験に必要な学習部分の取捨選択とTAC利用のメリット

① 学習範囲の選択

効率的に短期合格するためには、行政書士試験合格に必要な知識を取捨選択し、そこを集中的に学習することが必要です。



しかし！

限られた時間の中で、この取捨選択を行うことは容易ではありません。

行政書士試験に必要な基本的知識かどうかを判断するために、細かい法律知識を学習しなければならないとすれば、それは本末転倒です。

また、細かな知識を、すべて押さえようとすることは、合格に必要とされる基本的知識を曖昧にしまいます。

② TAC利用の最大のメリット

短期合格のためには、頻出分野を的確に捉えて、その部分をしっかり理解していく学習をする必要があります。



これを実現するのが

TACです!!!

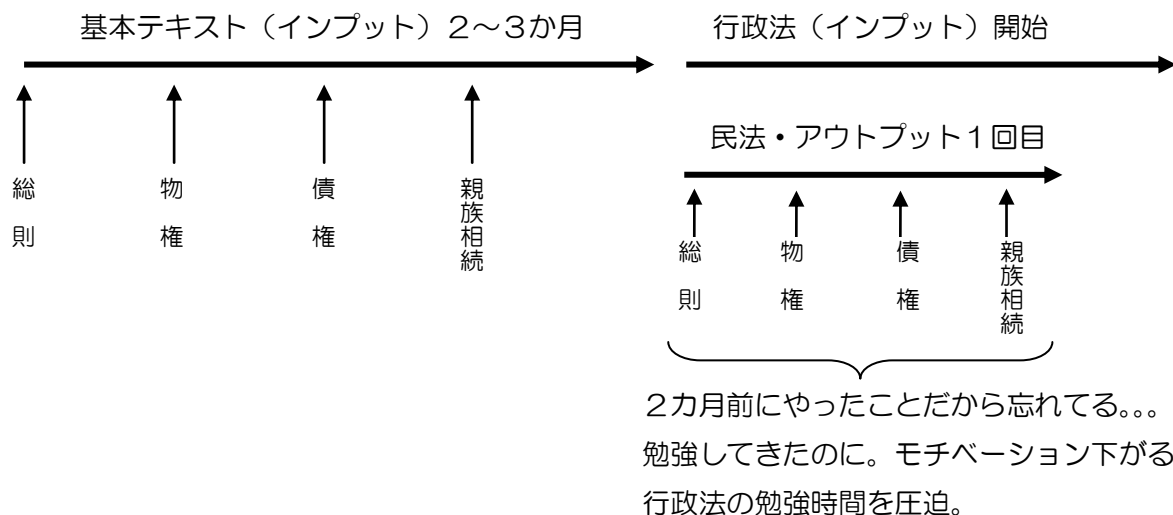
過去問を徹底分析して、行政書士試験合格に必要とされる基本的知識を取捨選択して教材を作成。また、法律を分かりやすく理解させてくれる講義により、基本的知識の取捨選択に時間をかけずに、合格へ到達しましょう。

(3) 学習の進め方

① 学習手順その1・インプット、アウトプットを同時並行で繰り返す。

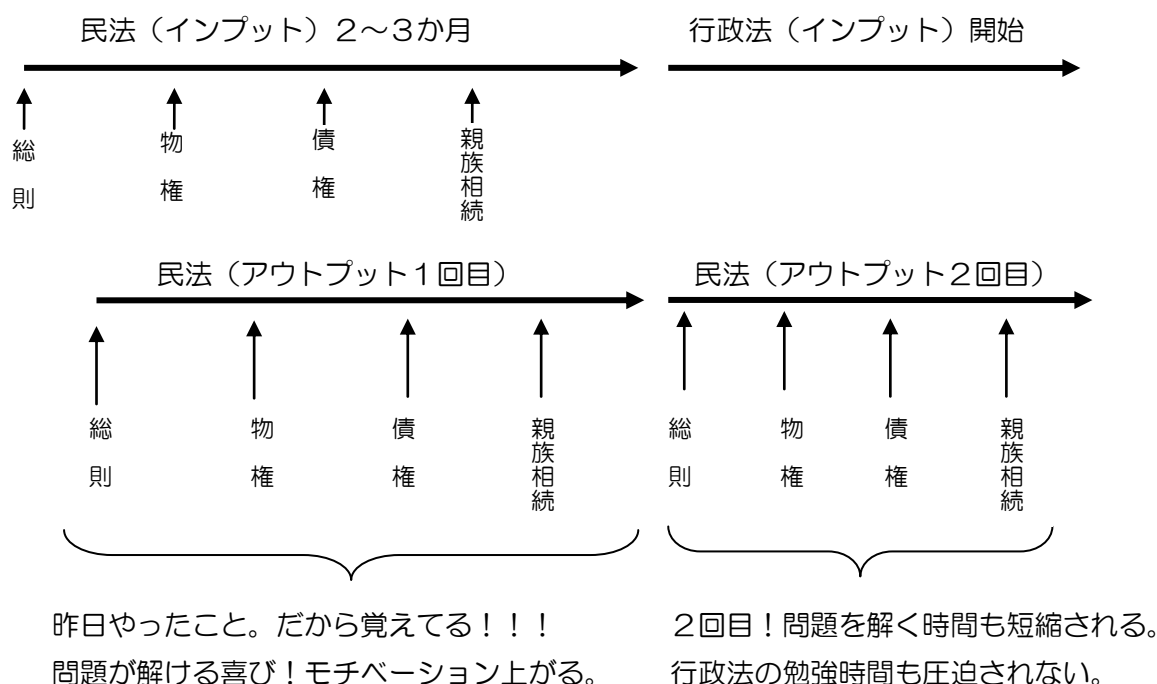
《効率的でないパターン》

インプットを全部やってからアウトプット



《効率的なパターン》

インプット・アウトプットを同時並行で行う。



② 学習手順その2・アウトプットとその方法

本試験までにやる問題演習は、その問題に正解するためではなく、あいまいな知識を発見して、その知識の穴をピンポイントで埋めるためにやります。

⇒ 正誤判断を正確にできる知識を獲得するための問題演習法

正誤判断の根拠となる条文や判例を説明できれば、○や×をつけ、できなかった肢や、正誤判断に時間がかかった肢には△をつけます。

【問題1】正しいものを選び。

- | | |
|---------------------------|-----|
| 1. → 見たことはあるけど、正誤判断がつかない | → △ |
| 2. →なんとなく正しいと思うけど根拠がわからない | → △ |
| 3. → 1分間考えて誤りと判断 | → △ |
| 4. → 正しいと判断。根拠判例も言える | → ○ |
| 5. → 誤りと判断。根拠条文も言える | → × |

肢4、肢5は分かっているので、軽く確認すればオーケーです。

肢1、肢2、根拠条文、判例を見直し。誤りの肢は特に大事にする。条文や判例のどこが誤りに変更されているのかをチェックします。

肢3は、なぜ正誤判断に時間がかかってしまったのかを自己分析。知識が曖昧なところを条文・判例でチェックします。

問題には正解したとしても、△の選択肢は知識が曖昧ですから、その肢に関わる条文知識、判例知識は一つ一つ丁寧に確認して、記憶します。それを何度も何度も繰り返し行うことで、△の数は減っていき、すべて○×を正確につけることができる知識、本試験でも使える知識が増えていくわけです。

③ 学習手順その3・アウトプット 法令40字記述式対策

1問の配点が高い法令40字記述式問題の対策もする必要があります。

もちろん、問われるのは基本的な「条文」「判例」ですが、択一式とは問われ方が異なり、法令40字記述式問題対策としてのアウトプットの訓練が必要です。具体的には、問題を解き、問題形式に慣れ、実際に文章を書いてみることです。

民法・行政法のアウトプット教材には、40字記述を出題していますので、問題を解きながら、40字記述問題の訓練しましょう。

以上

行書 400 時間表

[illegible]